

子ども用



伝道地便り

2020年 第3期 西中央アフリカ支部

第1話「落ちてきたボトル」	ガボン
第2話「賛美の力」	ガボン
第3話「井戸の中で聞こえた声」	ガボン
第4話「大きな足と大きな問題」	リベリア
第5話「新しい命」	ギニア
第6話「暗唱聖句大会」	ギニア

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。
主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」
紹介しましょう。

1. 落ちてきたボトル

ガボン



プリエール・ドング 16歳

ある夏の日、13歳のプリエール・ドングは、ガボンの首都、リーブルビルにある家の掃除を手伝っていました。床の掃き掃除が終わると、今度は緑色のバケツを持って外にある共同の蛇口に向かいました。この辺りの家は水道を引いていないので、みんなバケツを持って共同の蛇口まで水を汲みに行き、家まで運んで飲み水や生活用水として使っていました。

プリエールは水の入った重たいバケツを4回も運び、家の大きなたらいをいっぱいにしました。

これは大変な作業です。運び終わったプリエールはとても疲れていたもので、自分のベッドに行き、昼寝をしました。目覚めると、疲れもなくなっていたので、今度は玄関先にある白い椅子に座って聖書について学ぶ本を読み始めました。すると、5分もしないうちに、2階からゴロゴロと変な音がしました。

家は2階建てで、1階にプリエールの家族が住み、2階には他の家族が住んでいました。プリエールは2階を見上げ、聞こえ続けているゴロゴロという音の正体は何か考えました。それはまるでガラス瓶が床を転がっているような音でした。ゴロゴロ、一向に音は鳴りやみません。

突然、「立って逃げなさい」という声がしました。プリエールは「どうして？ 本を読んでいるのに……」とためらいました。その間もゴロゴロという音は止まりません。

「あの声はただの偶然ではないかもしれない。逃げよう！」と思い立ったプリエールは、急いで椅子から立ち上がり、一步踏み出しました。その瞬間、大きな緑色のワインボトルが2階のバルコニーから落ちてきて、プリエールが座っていた椅子の目の前で粉々に砕け散りました。もしそのままプリエールが座っていたら頭を直撃していてもおかしくありません。

その音を聞いたプリエールは驚きと恐ろしさで飛び上がりました。粉々になったガラス瓶はただの一片もプリエールには当たらず、安全が守られました。そして、彼は最初に声が聞こえた時にためらった自分を思い出しました。なんということでしょう。神さまは驚くべき方法でプリエールを守ってくださいました。

自分の寝室に戻り、プリエールは神さまに祈りました。「主よ、感謝します。神さまがあの場所に共におられなかったら、いったいぼくはどうなっていたことでしょう」

その夏の日以来、プリエールは神さまが特別な方法で守ってくださったことを忘れたことはありません。

「あの日、ぼくは大切なことを学びました。神さまはとても優しいお方です。ぼくをケガから守ってくださっただけではなく、重大な事故

から命をも救ってくださいました。ぼくたちはいつも神さまのみ声に聴き従わなくてははいけません。」

3年前の13回献金でプリエールが住むガボンの首都リーブルビルに高校が建設され、現在280名の生徒が学んでいます。今期の13回献金はアフリカ大陸の他の2つの国々、ギニアとリベリアの新しい学校建設のために用いられます。皆さまのご協力を心より感謝します。

〈お話のヒント〉

- 地図を広げてガボンとその首都リーブルビルを見つけてみましょう。
- 主人公の名前はプリエールです。
- プリエールは「神さまはわたしたちのお父さんです。お父さんは自分の子どもを守ります。神さまは愛の神さまです」と言っています。
- YouTube でプリエールに会いましょう。
bit.ly/Priel-Ndong
- Facebook (bit.ly/fb-mq) または ADAMS databank (bit.ly/A-Falling-Bottle) でプリエールの写真を見ましょう。
- 13回献金の用いられる場所の写真を見ましょう。[Bit.ly/WAD-2020](https://bit.ly/WAD-2020)

豆知識

- ガボンの東中央部、首都リーブルビルから362キロメートル離れた場所にイビンド国立公園があります。この公園は赤道直下にあり、コンゴウ滝やランゴウエバイというアフリカ大陸五大未開拓森林が有名で、ゾウ、ゴリラ、チンパンジー、様々な種類の鳥など野生動物に会うことができます。

2. 賛美の力

ガボン



ボンテ・メドウ 14歳

「さあ、練習しましょう。子どもコワイヤーが音楽ホールでのコンサートに出られることになりましたよ」コワイヤーを指揮する先生は興奮気味に発表しました。

ガボンの首都リーブルビルには、セブンスデー・アドベンチスト英語教会があります。その子どもコワイヤーに所属する30名の子どもたちは、今度のコンサートで5曲の賛美をすることになりました。コンサートでは、他のアドベンチスト教会の子どもコワイヤーも賛美することになっています。子どもたちは毎週練習を重ねました。

12歳のボンテもコンサートを楽しみにしている1人でした。ボンテは自分が通うアドベンチスト学校で、友だちをコンサートに招待しました。中には、笑いながら「君って歌が歌えるの?」とからかう友だちもいましたが、ボンテがポケットからコンサートのチケットを取り出すと、納得し、「本当に歌えるんだね。コンサート行くよ」と言ってくれました。

ボンテはオバメという友だちも誘ってみる

ことにしました。しばらく前、オバメはボンテを自分が通う日曜教会に誘ってくれました。アドベンチスト教会以外に行くことが初めてだったボンテは叔父さんといっしょにオバメの教会を訪ねました。

ボンテが、「オバメ、今度コンサートで賛美するんだ。聴きにこないかい」と尋ねると、オバメはニコニコ笑いながら、「君はいつも優しいね。日曜教会に誘った時も来てくれたから、今度はぼくが君の誘いに応えるよ」と言ってくれました。

ボンテが誘った8名の友だちのうち5名がコンサートを聴きに来てくれました。来てくれた友だちは、「楽しかったよ」「イエスさまを褒めたたえる賛美を聴いて、いい時間だったよ」などの感想を残してくれました。ボンテは賛美を通して大好きなイエスさまのことを友だちと分かち合うことができ、とても満足しました。

それから2年が経ち、コンサートのことなどすっかり忘れていたある日、ボンテはお母さんのおつかいで店に買い物に行きました。すると、「ボンテ! ボンテ!」と呼ぶ声がします。ボンテが振り向くと、そこには、2年前のコンサートに来てくれた友だちの1人、カーリンが立っていました。カーリンはその年の終わりに、家族の引っ越しのためにアドベンチスト学校を辞めていました。

ボンテは驚きながら、「引っ越したのにどうしてここに居るの?」と聞きました。するとカーリンは、「結局、引っ越さなかったんだ。今は他の学校に通っているよ」と答えました。そして、2年前のコンサートのことを話し始めました。あの日聴いた賛美が彼に大きな感動を与えたこと、その日からイエスさまのことを考え続けたこと、もっと知りたくなって聖書を読み始

めたこと、そしてイエスさまに全てをお献げする決心をし、バプテスマを受けたこと。

カーリンは、ボンテに向かって「君は、何も知らないぼくに真実を教えてくれた。なんて感謝していいかわからないよ」と言いました。

話には続きがありました。カーリンが言うには、あのコンサートによってもう1人の人の人生が変わったということです。カーリンは、ある日、通い始めたアドベンチスト教会であの日のコンサートで聴いた曲を賛美しました。すると、その曲を聴いて心動かされた男性がバプテスマを決心したということです。

カーリンはポケットからお金を取り出すとボンテに渡そうとしました。ボンテは、「お金なんて受け取れないよ。聖書の真実を分かち合うのはタダなんだよ」と断りましたが、カーリンはどうしても引き下がりません。

そばにいた近所の男の子は、ボンテがお金を断るのを不思議そうに見つめていました。「友だちがお金をくれようとしているんだよ。どうして受け取らないの？」と尋ねました。ボンテは、「人を助けてもお金は受け取らないんだ」とはっきりと断りました。ボンテのゆるぎない態度を見て、カーリンはようやくお金をしまいました。

店から出るとき、ボンテの顔は喜びであふれていました。神さまはボンテを用いて2人の人の人生を変えられました。このことを通して、ボンテは、安息日にもっとたくさんの友だちを教会に誘うことを決心しました。「たくさんの魂が主に立ち返ることを望んでいます」とボンテは語ります。

3年前の13回献金でプリエールが住むガボンの首都リーブルビルに高校が建設され、現在280名の生徒が学んでいます。今期の13回献金はアフリカ大陸の他の2つの国々、ギニアとリベリアの新しい学校建設のために用いられます。皆さまのご協力を心より感謝します。

〈お話のヒント〉

- 地図を広げてガボンとその首都リーブルビルを見つけてみましょう。
- 主人公の名前はボンテです。
- ボンテには「善い行い」や「紳士的な振る舞い」という意味があります。
- YouTube でボンテに会いましょう。
bit.ly/Bonte-Medou.
- Facebook (bit.ly/fb-mq) または ADAMS databank (bit.ly/Power-of-a-Song) でボンテの写真をみましょう。
- 13回献金の用いられる場所の写真をみましょう。
[Bit.ly/WAD-2020](https://bit.ly/WAD-2020)

3. 井戸の中で聞こえた声

ガボン



エマ・フローレ・エティアベギュエル 23歳

エマのおじさんは意地悪な人でした。おじさんの子どもたちは学校に通っているのに、エマだけはガボンの首都リーブルビルにある家から出してもらえませんでした。ほかの子どもは学校で学ぶことができるのに、なぜ自分だけが家で料理をし、掃除をしなければならないのかエマには理解できませんでした。「なぜわたしだけ学校に行かせてくれないの？」と聞いても、おじさんは、「どうしてお前みたいなバカなやつを学校に通わせなくてはいけないのだ」と取り合ってくれません。

毎日、エマは早起きをし、ほかの7人の兄弟たちのために料理と掃除をしました。神さまについて聞いたことはありませんでしたが、心のどこかで、だれかが自分を愛してくれているということを信じていました。

7歳になったある朝、エマは寝坊をしておじさんにひどく怒られました。仕事に行くとき、おじさんはエマを呼び、ついて来るようにと言いました。おじさんは近くにあった深い井戸ま

でエマを連れて行くと、「バカなやつめ。死んでしまえ」と言ってエマを井戸の中に落とし、木の蓋を閉めてしまいました。

エマは真っ暗闇の井戸の中を約 15 メートル下まで落ちました。水はとても冷たく、足を伸ばしても底につきません。泳ぐことも知らないエマは、どうしてよいのかわからず困り果ててしまいました。

その時、エマは、真っ暗闇の中に優しく、そして力強く響く、「恐れるな」という男性の声を聞きました。その声は続けて、「動いてはいけないよ。腕で自分の体をぎゅっと抱いて、体が冷えないようにしなさい」と教えてくれました。エマは言われた通りにしました。水の中で腕を自分の体にぎゅっと巻き付け、動かないようにしました。すると、不思議とエマの体は沈むことなく、疲れを感じることもありませんでした。

その日の夕方、1人で仕事から帰ってきたおじさんを見て、おばさんが、「あの子はどこだい」と、エマの居所を尋ねました。おじさんは、ためらうことなく、「井戸に捨てたよ」と答えました。それを聞いたおばさんは、「エマは間違いなく死んでしまった」と思い、悲しみました。おばさんは大慌てで井戸まで行き、蓋を開けました。すると、そこには生きているエマがいました。おばさんはすぐにロープを使ってエマを助け出しました。

おばさんに連れられて帰ってきたエマを見て、おじさんは慌てふためき、驚きました。どう考えても、エマが生きていることが信じられませんでした。しかし残念なことに、しばらくすると、おじさんのエマに対する扱いはますますひどくなってしまいました。

エマは、なぜ自分が痛み苦しむのだろうか、自分はそのために生まれたのだろうか、不思議

議でたまりませんでした。しかし、幼い頃と同じように、心の中では、どこかで、だれかが自分を愛してくれていると信じて疑いませんでした。

ある日、知らない人が家を訪ねて来て、神さまについて聞かせてくれました。「なぜわたしに神さまの話をするのですか。神さまはわたしのことなんてどうでもよいと考えていると思いますけど」と言うエマに対して、その人は、「あなたが苦しんで死んだとしても、あなたはまた生きるのです」と言いました。「死んでも生きるとはどういうことですか」エマは尋ねました。

その人は、イエスさまの死の意味と、それを信じる人々が永遠に生きられることを説明してくれました。神さまは、エマが痛み苦しむことを許し、何か特別なことにエマを用いるために準備されていると説明してくれました。エマは、その人が言うことを信じました。ずっと心の中で想ってきた、自分のことを愛してくれているだれかとは神さまのことだったと、エマは確信しました。あの日、井戸の中でエマを救ってくれた方も神さまだったとわかりました。

23 歳になったエマ・フローレ・エティアベギユエルは、もうすぐ高校を卒業します。「昔、わたしの周りの人たちは、わたしが学校にも行っていないバカで、将来成功なんてしないと聞いたけれど、わたしはもうすぐ高校を卒業します。わたしのことをバカにした人たちがわたしを通して神さまの栄光を見られることを感謝します」

2017 年の 13 回献金の一部は、ガボンの首都リーブルビルのアドベンチスト高校建設に用いられました。今、そこではエマのような生徒が学んでいます。若者たちが学校でイエスさまのことを学べるお手伝いをしてくださり、心から感謝します。

〈お話のヒント〉

- 地図を広げてガボンとその首都リーブルビルを見つけてみましょう。
- YouTube でエマに会いましょう。
bit.ly/Emma-Etiabeguel.
- Facebook (bit.ly/fb-mq) または ADAMS databank (bit.ly/Voice-in-theWell) でエマの写真をみましょう。
- 13 回献金の用いられる場所の写真をみましょう。
Bit.ly/WAD-2020

4. 大きな足と大きな問題

リベリア



ウィルモット・レッド 26歳

西アフリカに位置するリベリアという国の小さな村に住む、9歳のウィルモットが朝目覚めると、腿(もも)からつま先まで足が腫れていました。それは、前の晩、寝る前に見た足の約2倍の大きさでした。

ウィルモットはズボンを履こうとしましたが、きつくて入りません。靴を履こうにも足が入りません。ウィルモットは、仕方なく半ズボンを履いて裸足でお父さんのところまで行きました。

「足が！ 足が！ すごく大きくなってしまった！」というウィルモットを見て、お父さんは心配そうに、「痛むのかい？」と聞きました。ウィルモットは、「全然痛くないよ。でも、すごく腫れている！ ズボンも靴も履けないよ」と答えました。

お父さんは、自然に腫れが引くと思い、何日か様子を見ることにしました。しかし、1週間経っても一向に腫れは引きません。それどころか、今まで以上に大きくなっている様子です。ついにお父さんは病院に連れて行くために救

急車を呼びました。病院までの道のりは30分もかかりました。

病院では医師が様々な検査を行いました。何も異常が見当たりませんでした。ウィルモットを病院に置いて、お父さんはナコンティに会うために一旦村へ戻りました。ナコンティとは、お金をもらって人々のために祈りを捧げる村の年配いた女性祈祷師のことです。ナコンティはお父さんに、石けんとタオル、そしてオリーブオイルの代金として30ドル払うように言いました。ナコンティは、「息子さんが家に戻ってきたら、まず手洗いや入浴に石けんを使いなさい。そしてタオルで乾かして、最後に体にオリーブオイルを塗りなさい」と命じ、その後ウィルモットのために祈りを始めました。祈り終わった時、ナコンティは、「石けん、タオル、オリーブオイルのことは忘れて。今、私には幻が与えられました。息子さんはこの近くに住む人によって呪われています。だから、息子さんの病気を治したければ、どこか遠くに移り住みなさい」と告げました。

お父さんは大金をはたいて買った石けんなどをそのままにし、急いで病院に戻りました。そして、病院からウィルモットを連れ出すと、タクシーをつかまえ、その足で遠くに住むおじさんの家に連れて行きました。お父さんの思いは、ただただウィルモットを呪いから解放したい、の一心でした。

行った先の町で、お父さんはもう一度ウィルモットを病院に連れて行きました。すると、今度の医師は、ウィルモットの症状は腎臓の炎症によって引き起こされていると診断しました。約2週間の治療によってウィルモットの足は元通りになり、退院することができました。しかし、お父さんは、祈祷師が言った通り、ウィルモットは呪われていて、呪いから遠く離れた

場所に來たから良くなったと信じて疑いませんでした。そこで、お父さんはウィルモットを家に連れて帰らず、ウィルモットが今後もおじさんと住めるように手配しました。

それから4年が経ち、ウィルモットが13歳になった時、お父さんは引っ越し、ウィルモットを呼び寄せました。家族と暮らせるようになったウィルモットは近くにあったセブンスデー・アドベンチストの学校に通い始めました。

学校で、ウィルモットは、神さまは祈りに対してお金を求めないということを学びました。学びを進めるうちに、ウィルモットは神さまのことがどんどん好きになり、神さまに対する愛を安息日を守ることで示したいと望み、バプテスマを受けました。

日曜教会に通うお父さんは、ウィルモットがアドベンチスト教会に通うようになったことを知り、大変怒りました。ウィルモットの家族にとって土曜日は忙しい日でした。しかし、ウィルモットは教会に行くので、家で洗濯や庭の掃除を手伝うことができません。それを良く思わないお父さんは、ウィルモットが安息日礼拝から帰ってくると、バツとして夕食を与えないこともありました。

それでもウィルモットは、お父さんと安息日について話し合えるように努力しました。でもお父さんはまったく聞く耳を持ってくれません。毎晩、ウィルモットは神さまに、「お父さんの心を和らげてください」と祈りました。

ある晩、家庭礼拝をしていたとき、ウィルモットはお父さんに、「クリスチャンが日曜日に礼拝すべきと聖書のどこに書かれているの？」と尋ねました。お父さんは聖書を開いて、そのことが書かれている箇所を一生懸命探しました。しかし、見つけることができません。そこで、ウィルモットは自分の聖書を開き、ルカによる福音書4章16節のみ言葉をお父さんに見せました。

お父さんが黙って読んでいる間、ウィルモットは心の中で神さまに、「どうぞお父さんの心を和らげてください」と祈りました。ウィルモ

ットが示した箇所には、「イエスは……いつものとおり安息日に会堂に入り……」と書かれています。イエスさまが毎安息日、神殿に行って礼拝したことを知ったお父さんは驚きのまなざしでウィルモットを見つめ、言いました。「イエスさまが毎安息日、礼拝をされたなんて知らなかった。ウィルモット、今までわたしが君に對してしてきたことを赦してくれるかい」

その日以降、ウィルモットが安息日に教会に行くことに對してお父さんが反対したことはただの一度もありません。ウィルモットは、いつの日かお父さんもいっしょにアドベンチスト教会に通うことができるよう祈っています。また、お父さんが、あの祈祷師の元に行くこともなくなりました。今は何かあると直接天の神さまに祈っています。ウィルモットは、お父さんの救いを含め、全てのことを神さまにお委ねし、祈りながら日々過ごしています。

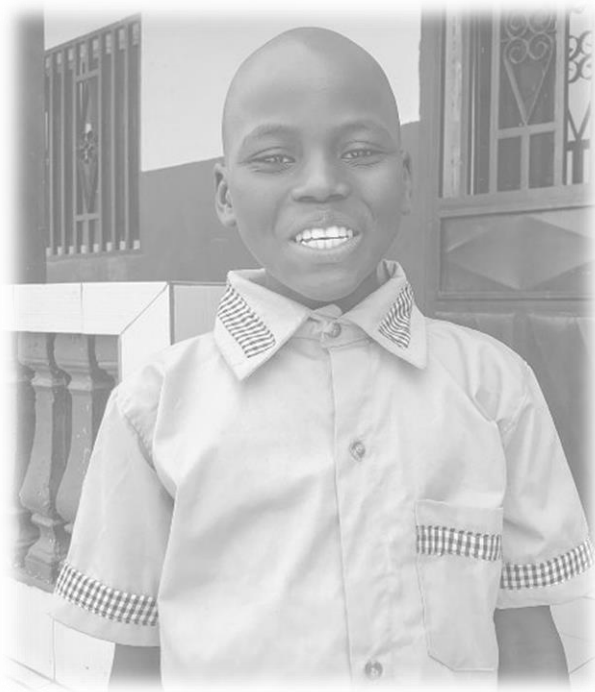
今期の13回献金の一部は、ウィルモットが住むリベリアのブキャナンという町に幼稚園から6年生まで通うことができる学校を開くために用いられます。ウィルモットと同じように多くの子どもたちがイエスさまのことを学ぶ機会が与えられますように、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

〈お話のヒント〉

- 地図を広げてリベリアのブキャナンを見つけてみましょう。
- お話に出てくる祈祷師は「ナコンティ」といいます。
- YouTube でウィルモットに会いましょう。
bit.ly/Wilmot-Redd.
- Facebook (bit.ly/fb-mq) または ADAMS databank (bit.ly/Big-Foot-Big-Trouble) でウィルモットの写真を見ましょう。
- 13回献金の用いられる場所の写真をみましょう。
[Bit.ly/WAD-2020](https://bit.ly/WAD-2020)

5. 新しい命

ギニア



モリバ・モネモウ 12歳

ギニアに住む、幼いモリバは大人の言うことをよく聞く素直な子どもでした。しかし、6歳の時にお母さんが亡くなると人生は一変しました。

モリバのお父さんは農場を営んでおり、忙しさからモリバの面倒を十分に見ることができませんでした。すぐにやってきた新しいお母さんは、5人の女の子と4人の男の子の連れ子を抱え、モリバの面倒を見る余裕がありませんでした。長いあいだ、だれも幼いモリバのことを抱きしめることも、優しい言葉をかけることもしませんでした。

だんだんとモリバの言動は乱暴になっていきました。お父さんの農場で働くことを嫌がり、用事を頼まれても、1日中外で友だちと遊び、家に帰ってくるのは夜遅くでした。食べ物を買うためにお金を盗みました。それでは飽き足らず、近所の農場からとうもろこしやピーナッツ

を盗み、それを売ってお金儲けもしました。

間違った行いを隠すためには嘘をつかざるを得ません。盗みを疑われると、「ぼくじゃない」と言うので、モリバを信じる人はいなくなりました。モリバに対しての扱いもひどくなり、殴る蹴るは日常茶飯事でした。

ある時、モリバが殴られていることを知ったロザリーおばさんは、心からモリバのことを心配しました。このままでは大きなケガにつながると心配し、モリバを家族から離して、国の反対側にある首都コナクリの自分の家へ連れて帰りました。

おばさんはセブンスデー・アドベンチスト教会に通うクリスチャンで、モリバにもイエスさまについて学んで欲しいと望み、モリバをアドベンチストの学校へ通わせ始めました。

それまで一度も学校に通ったことのなかったモリバにとって、学校は苦痛でしかありませんでした。特に読み書きにはとても苦労しました。それだけではありません。モリバにとって椅子にじっと座っていることは大変な苦痛でした。長いあいだ、1日中農場で好き勝手に遊んでいたモリバが、今では教室の椅子に座って授業を受けなければならないのです。

いつまで経ってもまったくじっと座っていることができません。少し机に向かっていたかと思うと、次の瞬間には椅子の上に立ち、椅子から椅子へと教室中を飛び回ります。それを見た子どもたちは喜びますが、先生は違います。先生に怒られても続けていると、そのうちバキッと音がして椅子が壊れてしまいます。するとモリバは校長室へ連れて行かれ、やがておばさんが呼び出されます。

おばさんは何度も、「すみません。今度から学校の物を壊さないようによく言って聞かせますので」と謝りました。

それでもモリバはじっと座っていることができませんでした。あまりにも長いあいだ屋外で自由に生きてきたからです。まったく悪気はなくても、椅子を何個も壊してしまいました。毎回おばさんが学校に呼び出され、おばさんはその度に頭を下げてください。

それを見ていた周りの人々は、今後もモリバが良い方向に進むことはないだろうと諦めていました。おばさんにも、「もう諦めなさい。あの子は学ばないよ。代わりに農業を教えたらいい」「学校に通わせるだけ無駄だ」と言う人もいました。しかし、おばさんはその度に首を横に振り、「モリバは賢い子どもだよ。神さまはモリバの新しい学びを助けてくださるに違いない」と答えました。

神さまはおばさんの祈りに応えてくださいました。1学期が終わる頃、モリバは文字を読んだり書いたりできるようになりました。少しずつ自分で課題に取り組めるようにもなってきました。それを見た先生はとても喜び、放課後には特別な補習を行ってくれるようになりました。

今、モリバは12歳になり、3年生の学級で学んでいます。学校からプレゼントされた聖書も読めるようになり、バプテスマの準備も進めています。モリバは、バプテスマを受けた新しい命で神さまにお仕えしたいと望んでいます。

「新しい命を歩めることを嬉しく思います。ぼくは前のぼくとは違います。周りの人も優しくしてくれます。ぼくは変わりました。イエスさま、安息日、そしてこの学校がぼくを変えてくれました」

今期の13回献金の一部は、ギニアの首都コナクリで今もっとも求められている幼稚園から高校まで学ぶことができるコバヤ学校の開校のために用いられます。モリバと学校のことを祈りに覚えていただければ幸いです。

〈お話のヒント〉

- 地図を広げてモリバが生まれたギニアの南東部に位置する町ンゼレコレと、今住んでいるギニアの首都コナクリ見つけてみましょう。
- 主人公の名前はモリバです。
- YouTube でモリバに会いましょう。
[Bit.ly/Moriba-Monemou](https://bit.ly/Moriba-Monemou).
- Facebook (bit.ly/fb-mq) または ADAMS databank (bit.ly/New-Life-WAD) でモリバの写真を見ましょう。
- 13回献金の用いられる場所の写真を見ましょう。
[Bit.ly/WAD-2020](https://bit.ly/WAD-2020)

宣教メモ

- ギニアでの宣教は 1987 年にヨーロッパから移住した信徒夫婦によってひっそりと始まりました。1992 年4月にリベリアから難民が入ってきた際、難民の中にはセブンスデー・アドベンチスト按手牧師のオロイシウス氏と何名かの信徒が含まれており、その後ギニアにおいて力強い宣教を開始しました。

6. 暗唱聖句大会

ギニア



レジュニア・ケクラ・ソロポグイ 13歳

ギニアの首都コナクリに住むジュニアは、新しい学校が気に入りませんでした。1階建ての建物には窓も扉也没有。校庭もなく、校舎の周りはただの土の山でした。前に通っていた学校は4階建てで、窓と扉がたくさんあり、広い校庭やバスケットボール専用コートもありました。

3年生最初の日、学校から帰るとジュニアは、「学校嫌だよ。全然楽しくない」とお父さんに訴えました。お父さんは、子どもたちが神さまについて学ぶことを望み、今年からジュニアと妹のエミリーをセブンスデー・アドベンチストの学校に通わせることにしたのです。学校の建物自体は新しいのですが、建設中に資金が不足し、窓も扉もつけることができませんでした。

ジュニアは1年生と2年生のときは普通の学校に通い、今年から新しい学校に移りました。エミリーは今年1年生になったばかりです。お父さんは、「だんだんと楽しくなるよ」と、2人が学校に通い続けることを勧めました。でも、ジュニアは納得できません。

そんなジュニアも、日が経つうちに、新しい学校での聖書の授業が好きになりました。聖書に書かれている、神さまがこの世界を造られた話やイエスさまが私たちの罪のために死んでくださった話などは、今まで聞いたこともない話ばかりで、ジュニアはワクワクしました。

ある日、聖書の授業中に先生が、「明日、クイズをしますよ」と発表しました。先生は黒板に5つの聖書のみ言葉を書くと、子どもたちにノートに書き写すように言いました。そして、「この中から1つみ言葉を覚えてきなさい。それが明日のクイズです。」と言いました。

家に帰ったジュニアはエフェソの信徒への手紙6章1、2節を繰り返し唱えました。「子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです。『父と母を敬いなさい。』これは約束を伴う最初の掟です。」お父さんとお母さんは聖書のみ言葉を覚えるジュニアを嬉しそうに眺めていました。

次の日、先生は、小さな紙を配ると、そこに聖書のみ言葉を書くように言いました。もちろんジュニアは満点をもらいました。それからというもの、先生は度々このようなクイズを出しました。ジュニアはすっかり暗唱聖句が好きになりました。

学校にはバスケットボールなどの遊びはありませんでしたが、子どもたちは新しい遊びをどんどん作りだしました。

ある日、先生は、ジュニアとジュニアの友だちの男の子と女の子、合計3人に2年生と行う大会のための準備をするように言いました。その大会は暗唱聖句大会で、どちらのチームがより多くの聖書のみ言葉を覚えているかを決める大会でした。

ジュニアは家に帰ると聖書を開き、今まで覚

えたみ言葉を読み直しました。ジュニアは学級の代表に選ばれたことが嬉しくてたまりません。お母さんも、「これを機会に聖書にもっと詳しくなるわね。」と言って喜んでくれました。

次の日、ジュニアは他の2人の友だちといっしょにみんなの前に立ちました。反対側には2年生の代表3人が立っています。そしてたくさん仲間がこちらを見守っています。

先生が大会のルールを発表しました。まず先生が聖書の箇所を言います。そして両チームとも答えるチャンスが与えられるので、覚えていたら声に出して発表します。先生は最初の箇所として、「ヨハネによる福音書3章16節」と言いました。

2年生の代表の1人が、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」と、見事に発表しました。

3年生の代表も同じように、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」と発表しました。

両者とも完璧に覚えていたので、1ポイントずつ獲得し、成績は1対1です。次に先生が提示したみ言葉も両者とも正しく答えることができました。2対2です。4問終わった時点で、両者の成績は4対4で引き分けていました。観客はどちらが勝つか固唾をのんで見守っています。

先生は、「さらに4問出します」と言いました。両者とも次々と答え、成績は7対7となりました。先生は最後に、「エフェソの信徒への手紙6章1、2節」と言いました。今までスラスラ発表していた2年生の代表の顔が少し曇りました。どうやら覚えていないようです。なんと、ジュニアの仲間も自信なさそうにしています。この学校に来て最初の聖書のクイズで覚えた聖句をしっかりと頭に刻んでいたジュニアは、堂々と、「子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです。『父と母を敬いなさい。』これは約束を伴う最初の

掟です。」と発表しました。

先生は、「正解！ これで成績は8対7で3年生の勝利！」と叫びました。3年生はみんな手でたたき、声をあげて喜びました。ジュニアの心は達成感で満たされました。新しい学校は前の学校のようにきれいではないし、校庭もないけれど、今日のような出来事があれば、そんなことはどうでもよく感じられました。

その後、聖書の授業を楽しそうに受けるジュニアを見て、先生はジュニアと妹のエミリーを安息日に教会に誘ってくださいました。すぐにジュニアとエミリーは毎週教会に通うようになり、お父さんとお母さんもいっしょに通うようになりました。やがて、お父さんとお母さんは教会に馴染み、バプテスマを受けました。近い将来、ジュニアとエミリーもバプテスマを受けることを望んでいます。

13歳、7年生(中学1年生)になったジュニアは、これからもアドベンチストの学校で学びたいと望んでいますが、残念ながら現在の学校では1年生から6年生までしか学ぶことができません。今期の13回献金の一部は、4階建ての新しい幼稚園生から高校生まで学べる学校の建設に用いられます。この学校ができると、ジュニアもアドベンチスト学校に通うことができます。皆さまのご協力を心より感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- YouTube でジュニアに会いましょう。
bit.ly/Junior-Soropogui.
- Facebook (bit.ly/fb-mq) または ADAMS databank (bit.ly/The-Big-Contest) でジュニアの写真を見ましょう。
- 13回献金の用いられる場所の写真を見ましょう。[Bit.ly/WAD-2020](https://bit.ly/WAD-2020)